

百十四銀行がめざすビジネスモデル(中期経営計画)

地域金融機関にとって厳しい環境が続く中、当行の組織や人材力及び営業ネットワークなどを最大限活用して金融仲介機能を発揮し、お客さまや地域の金融資産形成等のサポートに全力を注いでおります。お客さま・地域の成長に貢献し、それを自らの競争力や安定的な業績につなげる「地域経済における好循環」を実現することが、当行がめざすビジネスモデルです。

銀行を取り巻く環境

- 資金需要の低迷
- 低金利環境の長期化と資金利鞘の減少
- 人口減少・少子高齢化社会の進行
- FinTechを用いた新たな競合者の登場
- 顧客ニーズの多様化
- ライフスタイルの変化
- 金融規制の緩和

百十四銀行の経営資源

- 経営資源
 - 従業員数 **2,283名**
 - 店舗数 **124店舗**
- 強み
 - 瀬戸内圏及び四国の成長性
 - 歴史ある広域店舗網
 - 地元香川県での圧倒的シェア
 - 充実した本部サポート体制
 - 女性の活躍
- グループ会社 **10社**※
- 海外 **2拠点**

※平成30年4月27日開催の当行取締役会で解散方針を決定したHyakujushi Preferred Capital Cayman Limited 清算完了後(平成30年12月末までに清算完了予定)は9社となります。

地域経済(香川県)の現状

- 預貯金残高(1世帯あたり): **全国3位**
- 有効求人倍率: **全国8位**
- 産業構造

中小企業を主体とした特定の業種に偏らないバランスの取れた産業構造。このため、経済環境の変化に強いという強みがある一方、地域経済の強力な牽引役となる中核産業や企業群が少ない。
- 人口減少の先進地域

香川県の人口は、平成11年の103万人をピークに、平成29年10月1日時点では、96万人となっている。日本全体の人口が減少に転じたのは、7年前(平成23年)であり、香川県は人口減少の先進地域となっている。



香川県経済の概況

香川県経済は、生産活動の回復には弱さがみられたものの、設備投資が増加したほか、好調な雇用環境を背景に個人消費にも持ち直しの動きがみられ、景気は緩やかに拡大している(平成30年3月)。

TOPICS 県内観光客 過去2番目の946万人

平成29年に香川県を訪れた観光客数は、過去2番目の946万人超で、900万人突破は5年連続。また、高松空港の外国人入国者は5年前と比べて5倍超の12万人となり、過去最多を更新。平成31年には瀬戸内国際芸術祭の開催が予定されており、今後ますますの増加が期待される。

中期経営計画

チャレンジ・バリュー・プラス

(平成29年4月~平成32年3月)

めざすべき姿

金融の垣根を越えて地域の「**ありたい**」にとことん関わり、
地域と一緒に成長する

最終年度(平成31年度)

収益性

親会社株主に帰属する
当期純利益

95 億円以上

効率性

連結ROE

3.0 %以上

健全性

連結自己資本比率

9.5 %以上

3つのチャレンジ

お客さま・地域と当行が共に成長する好循環の実現

1 地域社会

地域価値創造に
チャレンジ

2 法人顧客

事業価値向上に
チャレンジ

3 個人顧客

生涯価値向上に
チャレンジ

行動指針

どんなときもお客さまと地域を徹底的にサポート

営業力の強化

市場運用の強化

運用体制
整備

運用強化

5つのプラス

チャンネル改革+

生産性向上+

組織力強化+

リスク管理高度化+

アライアンス+

事業基盤の強化

経営基盤
の充実

◆ICT戦略 ◆業務継続計画(マスタープラン) ◆ガバナンス ◆コンプライアンス ◆戦略的CSR